

「新潟テルサ健康クラブ」の営業終了 撤回せよと追及 市は12月議会で議案撤回



渡辺有子議員はさる6月議会で、新潟市が「新潟テルサ健康クラブ」の営業を突然終了するとした議案について、市民・利用者に十分な説明もないままのやり方に強く批判し、いったん議案を取り下げべきとの考えを示し市長に迫りました。市は12月議会で議案を撤回しました。

**利用者にも議会にも
十分な説明なし**

新潟市は昨年の8月28日に「新潟テルサ健康クラブ」を平成26年3月31日で営業を終了すると、小さな紙切れで会員に知らせました。

9月6日から始まる9月定例議会の2日前の9月4日に直接会員への説明会を開きました。

突然の知らせに怒った会員からは、市の説明に納得せず再度話し合いの場が設けられることになりました。

しかし、その2日後の9月6日定例議会初日には、営業終了の議案はそのまま議会に提出されたのです。

議会に提案された議案には現在健康クラブが使っている施設を多目的ホールにする

いつもの通り、営業終了については市長からも何も説明はありませんでした。

**利用者も議会も
軽視する
市長の政治姿勢に
大きな問題**

そのため、議員には営業終了の議案があることすらわからなかったのです。

もし、議会がそのまま議決すれば営業は終了されることになりかねませんでした。

このように、利用者にも議会にも十分な説明もしないやり方に対し、「これが新潟市のやり方なのか」と市民からも批判の声が上がりました。

市長の政治姿勢に大きな問題があるといわなければなりません。

**利用者の運動実り
12月議会で議案
取り下げ**

利用者みなさんは、短期間に3000を超え、健康クラブの存続を求める署名を集め提出。議会には陳情も提出し大奮闘しました。

その結果、市は12月議会で議案を取り下げました。

**市は市民の声を傾け
市民とともに
「健康寿命日本一」を
めざせ**

新潟市は健康寿命日本一を目指すとしていますが、今回のことは、その方針に逆行するものです。

「いつまでも健康でいたい」というのは市民の願いです。

新潟市は市民の願いに答え、健康づくりを応援することこそが役割です。

市民の声を傾け、市民とともに「健康寿命日本一」を目指すべきです。

テルサ利用者の声

私は10年間週に3回以上テルサに健康クラブに通い、トレーニングをしています。おかげで風邪もひかず、体調も良く病院にもあまりかからずです。

このたび、突然テルサ健康クラブの営業終了の通知が届き驚きました。利用者みなさんの存続の声と議会での追及で、存続と決まり喜んで

(70歳 男性)

**市の責任で重症心身障がい児者の
生活介護サービス施設整備を
市も施設整備は喫緊の課題と答弁**

渡辺有子議員は、平成25年度末に特別支援学校を卒業し、医療的ケアを備える生活介護サービス施設が、国の補助金がでず、整備できなくなり困っているとの話を聞きました。

国の補助金が受けられなくとも、市の責任で整備するよう求めました。

市も施設整備は喫緊の課題であるとの認識を示し、事業の必要性や緊急性がきわめて高い場合はすみやかに関係課と協議しながら今後対応を検討していきたいと答弁しました。

**地域のみなさんから寄せられた
要望を届けました**

渡辺有子議員は江南区地域のみなさんから寄せられた要望をまとめ、江南区長に届け懇談しました。

要望項目は、連節バス導入(BRT)の中止、生活保護引き下げにより影響のある63事業についての市の対応について、公共施設が指定管理者制度導入によりサービス低下を招いている問題の改善等市政全般に関する要望と、地域別に出されている道路改修や、高齢化により側溝の泥上げ作業が大変なことから区の支援策が求められていること。また、区バス住民バスの増便など利便性向上や区バス料金をワンコイン(100円)にしてほしいなどを要望しました。

市からの回答を十分に検討し、皆さんの要望にこたえられるよう今後とりくんでいきます。



地域のみなさんと区長に要望